

佐渡米通信

こめへる

2025年 9 月号

発行日:2025年9月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

石川県でのトキ放鳥に向けて情報交流

7月下旬に石川県の職員の方と民間の方々が見察に来られました。石川県では来年6月に本州で初めてとなるトキの放鳥が行われます。今回の視察は、佐渡でのトキとの共生の取り組みについて生産者、市役所、JA佐渡が説明を行い活発な情報交流が行われました。トキを佐渡の生態系へ戻す具体的な行動は、2001年旧新穂村の有志の団体から始まりました。その後2006年には「朱鷺と暮らす郷」認証制度の検討を行い、2008年から佐渡市認証米の販売を開始しました。「朱鷺と暮らす郷」認証制度は官民の緊密な連携で実現しましたが、この取り組みを理解し賛同してくれる生産者や販売先、消費者がいなければ持続することは出来ませんでした。

JA佐渡では他地域でのトキの放鳥の取り組みが広がるための支援を可能な限り協力を行うと共に、石川県の震災からの一日も早い復旧と復興を心から願っております。



石川県から来られた方々と情報交換

佐渡の米農家さんのお仕事紹介

新穂地区の野崎さんに穂肥^{ほごえ}の散布作業について取材させていただきました。穂肥とは、穂が出る前に施す肥料をいいます。散布のタイミングが難しく、早すぎると肥料が稲の茎や葉に効いてしまい、穂を肥やすことができないため時期の見極めが重要です。

野崎さんは兼業で農業をされており、平日出勤前の朝5時から田んぼを回り、水管理を行います。帰宅してからも19時過ぎまで穂肥や草刈りを行います。穂肥施肥の見極めは難しいため、JA佐渡水稻指導員に相談をしたと笑顔で教えてくださいました。野崎さんは、8haのコシヒカリやこしいぶき等を作っており、栽培管理システム「xarvio®FIELDMANAGER (ザルビオフィールドマネージャー)」も導入し出穂時期など生育管理をする際の判断材料に活用されているそうです。また、この時期は草刈りに多くの時間を割くそうですが、ラジコン式の草刈り機も活用して作業負担を軽減されているそうです。トキは夏場に畦でエサをとったり、稲の影で暑さを凌ぐ姿を目にします。除草剤を使わない緑の畦の保持はトキとの共生をするうえで大切な取り組みです。

今年は高温少雨のため稲の生育が心配されています。JA佐渡では生育状況の把握や追肥量の管理に役立つ葉緑素計 (SPAD) の無償貸出を今年も行っています。近年の品質格付けを引き下げる要因となっている高温登熟対策の呼び掛けを引き続き行って参ります。



今年は夕方でも気温が高い日が続く中、帰宅後ももうひと頑張りする野崎さん

野崎さんのある日の切り抜き



土手の草刈りを新調したばかりのラジコン式草刈り機で作業



タンクの肥料と本体を合わせると30kgを超す動力散布機を背負って穂肥散布を行う



趣味で始めたサクランボ園は、ただ今ハウスの増設中